日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	インテリア設計実習 1	
科目基礎情報					
開設学科	建築設計科	コース名	インテリア専攻	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	60時間
単位数	2単位			授業形態	実習
教科書/教材	第3版コンパクト建築設計資料集成(丸善) / 配布資料				
担当教員情報					
担当教員	小林 郁夫 ・ 田島 葵		実務経験の有無・職種	有・建築設計・監理 一級建築士	
学習目的					
<p>既存マンション一室のスケルトンリノベーションの提案を通して、学生がインテリアデザインの楽しさに興味を持つことを第一の目的とする。インテリアデザインは一般の建築設計と違い、インテリア空間を構成する要素が目で見えて、手に触れて、音を聴いてなど、「五感で感じる」ものとなっている。その要素である「マテリアル・色・テクスチャ」の特性および効果を知り、理解できること。さらにはインテリア設計に必要な図面表現などの基礎知識を身に付けることを目的とする。また、インテリアデザインで重要となるコーディネート・プレゼンテーションを身に付けてもらうことを目的とする。</p>					
到達目標					
<p>この科目では、学生が以下の5つのことが出来ることが目標である。－ (1) 現地調査の重要性 / (2) 企画・提案力 / (3) 作品をまとめ上げる力 / (4) 表現する力 / (5) 他の学生の作品を評価する力－ (1) では、下地(材料・障害物)がどうなっているのか、給排水設備の位置・納まりを「調査」「分析」「検討」し、(2)では、どのように条件に合った空間を提案していくかということを、学生自ら考えることが目標である。そこから(3)～(5)までの過程では、自主的にまとめ上げ、自分の言葉で表現し、さらには他の作品を評価することが出来るようになることが目標である。実習の授業では、教員との意見交換がとても重要になるので、積極的に参加することが授業の評価条件・基準となる。</p>					
教育方法等					
授業概要	この授業では、実習を通して「考える」・「まとめる」・「やり遂げる」という学習を採り入れる。基本的にシラバスに則って授業を行うが、進捗状況、理解度に応じて、スケジュールを変更することがある。また、欠席した者、授業内でできなかった学生は、必ずその日に行った授業内容を確認および自宅学習し、次の授業までに準備してくること。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての課題提出かつ3/4以上の出席を持って合格とする。理由のない遅刻や欠席は認めない。 ・遅刻、早退、途中退室等の場合は、必ず教員に報告すること。 ・授業中の私語や受講態度、および教室での飲食、器物損壊などには厳しく対処する。 ・課題の進捗状況に応じて、板書等で説明したり、資料を配布する。 				
評価方法		割合	備 考		
	試験・課題	50%	成果物を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	15%	調べ上げる力・考える力を身に付けさせるために実施する(レポートを含む)		
	成果発表 (口頭・実技)	15%	プレゼンテーション能力を評価する		
	平常点	20%	授業態度によって評価する		
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	課題1:椅子のスケッチ	インテリアデザインの基礎 椅子のスケッチ 課題2:説明			
2回	課題2:マンションのリノベーション	コンセプトシート(2案以上)・躯体平面図作成			
3回	課題2	コンセプト提出、エスキス①・躯体平面図チェック・完成			
4回	課題2	ゾーニング・エスキス② 躯体平面図作成・完成			
5回	課題2	エスキス③ イメージ図①作成(フリーハンド、仕上げ、テクスチャ)			
6回	課題2	エスキス④、イメージ図② 色彩・材料①検討(PC検索)			
7回	課題2	改修図面①作成 色彩・材料②			
8回	課題2	改修図面② 接客空間の照明計画、什器の検討、壁面のデザイン(サインペン・色鉛筆)			
9回	課題2	改修図面③ オリジナルアイテム検討/接客空間のパースペクティブ①作成(2方向)			
10回	課題2	改修図面④ オリジナルアイテム検討/パースペクティブ②			
11回	課題2	プレゼンテーションボード① パースペクティブ③ 展開図①(1/30)4面以上			
12回	課題2	プレゼンテーションボード②(ダイアグラム) パースペクティブ④ 展開図②			
13回	課題2	プレゼンテーションボード③(色彩・材料・テクスチャ)			
14回	課題2	プレゼンテーションボード④ ブラッシュUP 課題提出			
15回	課題2:発表・講評会	プレゼンテーションの表現の仕方を身に付ける			